

## 昭和の南海地震体験談

氏 名: 亀井 寿男(かめい としお)  
生年月日: 昭和8年11月22日  
地震を体験した場所: 田辺市  
当時の家族状況: 父、母、弟妹4人



### 1) 地震発生時の状況

当時 13 歳、地震時、すぐに起きて家族7人、外へ出る。

当時の記録に「着替えた」と記述があるが、覚えていない。枕元に、着替えは畳んで、寝ていたが、ネルの寝巻きも覚えているが、地震の日がそうであったのか、もう忘れた。

浜のほうから「津波や！」「津波来る！」の叫び、怒鳴り声が聞こえて、家の裏に住む一家と共に、徒歩で2,3分の所にある大神社に逃げ上がった。

### 2) 津波襲来時の状況

真っ暗で、津波は見えてない、自分達が神社に上がったら、焚き火してあり、多分それを目指して行ったのだろう、夜が明けるまで津波は見えず、夜が明けたら宮ノ前の道が濡れていたが、水は引いていたから、家まで戻った。

### 3) 家族の行動・被害

何を持ったか、着替えたのか、もう、忘れてしまった。

全員無事。裏の一家も無事

### 4) 集落・周囲の被害

隣の海側に、家があったご隠居さんと孫の男の子が、2人溺死。

その家は魚の加工場をしていて、工場の屋根と、隣家の屋根の上に、4mぐらいの船が一隻乗っていた。

私の座敷に柱、壁を壊して伝馬船が座っていた。家の中にはドラム缶・蒸籠・ゴミが散乱していた。私の家の通りの家は、天井近くまで浸水、前の通りは床上浸水、少し上がった通りは下駄が浮く程度の浸水。道一本、一筋違うだけで被害の程度は違った。

### 5) 地震・津波後の生活

とても、直さなければ、住めない状態だったので、50m程離れた親戚のお家で、1週間から10日ほど世話になった。

親戚、近所皆に世話になって、ぼちぼち片付けていった。リヤカーに長持を積んで、南部川まで洗いに行った事も覚えている。

井戸はあったので、水に不自由無かった、食べ物は親戚や祖父母が心配して運んでくれた。

畳を買えずに、藁を買って、上敷き敷いて生活した。穴の開いた壁は、父が、左官屋だったので、簡単に直して住んだ。お世話になった親戚の家が、何も被害も無かったからかも知れないが、電気もいつ復旧したか忘れたが、不自由なかつた様に思う。

## 6) 次の災害への備え

とにかく、近くの高いところに逃げる。

私は、次、又、大地震・津波となったら、同じ神社に逃げる予定。

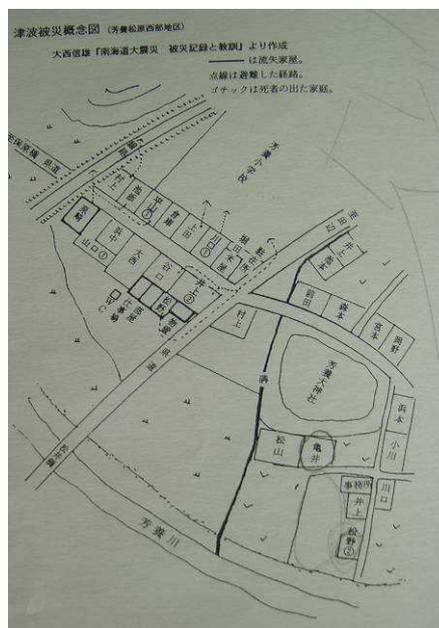
## 7) その他

現在、区長をしていて、自分が、今も低い土地に住んでいるので、同じように被災した、少し離れた地域に住む人たちに、地震津波の講演会などの参加を呼びかけるが、津波・津波後、区画整理されてから、そこに、移って来た人は、全く関心が無いのが心配だ。

地震・津波後、又、それからの65年間に、地面は嵩上げされ、砂浜は埋め立てられ、湾の形も変わって、今度同じ規模の地震津波が来たら、V字湾から入った津波は、ズーっと山手まで登って、そう、簡単に水が引かないだろう、心配だ。



今度も逃げる予定の神社



津波被災概念図 大西 信雄氏

「南海大震災 被災記録と教訓」より掲載  
右下:大神社下の丸で囲った所が当時の、  
自宅